

令和5年度 第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会 記録

※ 18時30分開会

※ 20時00分開会を目処

学校教育課長	<p>定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>はじめに、開会を教育部長よりお願いします。</p>
教育部長	<p>ただいまから「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>次に、教育長より挨拶をお願いします。</p>
教育長	<p>お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>裾野市固有の課題について協議するため、検討委員会ならびにプロジェクトチームを組みました。目的は、委員会への資料の収集、あり方検討委員会の内容を学校へおろしたとき、どのような形になるのか検証したいというものがあります。また、それに付随して、裾野市の教育について市をあげて考えていく体制を整えたいということから、プロジェクトチームを組みました。</p> <p>今日は特別支援教育について 忌憚のない意見を寄せていただきたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>次に、委員長より挨拶をお願いします。</p>
委員長	<p>こんばんは。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。裾野市の問題は、教育一般の問題を考えているというお話がありましたが、逆に裾野市固有のという見方でお話をさせていただきます。市の名前を隠すと、どこの話か分からなくなるものもあるが、やはり裾野市ということで考えていきたいです。今の裾野市から始めて、次に行くためのマストを決めるような話し合いができればと考えています。よろしく願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>次に、協議事項に入らせていただきます。</p> <p>ここからは、村山委員長に議事進行をお願いします。</p>
委員長	<p>それでは、議事を進めていきたいと思えます。本日は、資料にあるとおり</p>

	<p>2つの事項につきまして協議を進めていきたいと思ひます。 はじめに、「(1) プロジェクト会議報告」について 事務局より説明をお願いします。</p>
--	--

・・・学校教育課より 説明・・・

<p>○プロジェクト会議記録 15年後に必要な力 2回の会議を行ってきたが、課題を共有するとともに、プロジェクトチームの意義や役割について確認しました。そして、今の小中学生の15年後に必要な力について話し合いました。 記録をまとめた資料をご覧ください。 裾野市に勤める教員自身が、15年後に必要な力を話し合うとともに、それを高めるためにどうしたらよいかについても議論しました。 コミュニケーションの力を育む。生身、仮想空間での学びも必要。 実際に育みたい力として、自分のことを理解し、I'm O.Kと言える力、自己肯定する力、発信する力、多様性を尊重し、受容する力、相手の思いをくみ取る力 互いの意見を聞くことで、自分たちの知識、意見が広がり、受け入れる力・姿勢 夢をもつ、やりたいことをみつけることができるといった、 育てたい子供像にまで広がりました。 今後、体系的に考え、カリキュラムに落とし込んでいきたいと考えています。 そして、あり方検討委員会の意見をプロジェクト会議にも伝え、現場で生きる形にしていきたいと思ひます。</p>

<p>委員長</p>	<p>質問があれば受け付けますが、いかがでしょうか。 (質問なし。) 次に、「(2) 裾野市の特別支援教育について」について 事務局より説明をお願いします。</p>
------------	--

・・・教育監より 説明・・・

<p>① 前回の流れから多様性とか特別支援について考える必要がある。 ② 今回はまず特別支援教育について考える。 ③ 事前に特別支援教育の裾野市の課題を配布し、裾野市が目指す特別支援教育を話す。 ・どの子ども支援が必要だという考え方スタート その子らしさを大切にしながら、支援をしていくことを目指す。 ・当面は、今困っていることを 特別支援教育のセンター化 ICTを取り入れながら子供の見立てをしていく 研修を通して、全体(教員)のボトムアップ</p>
--

④ 野口様によるリモート講義

○日本におけるインクルーシブ教育システム

〈障害児教育の流れ〉

- ・ これまでは、特別支援学級等別の場で学ぶという形で発展してきた。特別な教育課程を編成ができる。
- ・ 通常の学級に在籍する児童生徒も支援を必要とする。
- ・ 特別支援の場は通常の学級の中にも、特別支援学級にもある。
- ・ 目的は、インクルーシブな社会をつくり、障害の有無にかかわらず同じように学ぶことができる。

〈方向性〉

- ・ これまで構築してきた場を維持しつつ、柔軟に行き来できるようにすることで、同じ場で学びつつ、個別に合わせた学びもできるようにしていく。
- ・ 多様な場がありながら、就学先の決定は保護者の意向を最大限反映しつつ、最終決定は教育委員会となっている。
- ・ 可能な限り交流および共同学習にて共に学ぶ機会を設定。
- ・ どの場においても合理的配慮が提供されるべき。
- ・ 日本の特徴は、柔軟な形である特別の教育課程が編成されること。

〈現状〉

- ・ 特別支援教育対象の児童生徒の数は、この20年で倍増している。
- ・ 通常学級で支援が必要と思われる数も増加している。（クラスの8.8%）
- ・ 特別支援学校と通常の学校が交流しているのは、2～3割程度。交流機会はほぼない状態のところが多い。

○障害者権利条約と国連からの勧告

- ・ 障害者施設が自宅の隣に建設されることに対して、日本は賛成者の割合が少ない。
- ・ 障害のある人にかかわったことがないと答えた人が、他の国と比べて多い。おそらく学校制度に問題があるのではという意見がある。

〈障害者の権利に関する条約〉

- ・ 障害のある人たちが取り組みにかかわることはあまりなかった。当事者が中心になってつくった条約。
- ・ 障害の社会モデル 生きづらさは、社会が多様な障害のある人がいることを前提につくられていない。「社会的障壁」が生じている。
- ・ 2023年185か国が批准。（日本も批准している。）
- ・ 第24条 インクルーシブ教育システムについて触れられている。
- ・ 一般的意見第4号では、インクルーシブとは障害のある人とない人が共に学ぶということにとどまらない。すべての子供たちが公平に参加できるようにシステムを変えるべきとなっている。
- ・ 既存のシステムのままではない。ただ一緒に学ぶということではない。システムを多様な子

供たちがいるという前提で構築することが求められている。

- ・ポイントとして、他の子どもと同様に地域の学校で教育を受ける権利を保障すること。
- ・障害を理由としてシステムから排除されないこと。
- ・国連から勧告を受けている。分離的な特別支援教育をやめ、インクルーシブ教育を受けられるだけの予算を確保することが求められている。

〈解決すべきこと〉

- ・就学先の決定の在り方、通常の学校が障害のある子供を拒否できない。
- ・カリキュラムの在り方、学級経営のやり方等、多様な子供たちがいるという前提で作っていくことが必要。
- ・特別支援を受ける子供たちが増えている理由は、学級経営、授業の在り方を検討せず、すぐに教育の場を変える検討がされているので、変える必要がある。

○日本における今後の方向性

①校内支援体制の充実

- ・最大限配慮しても難しい場合は、教育の場を変えることを検討していく。

②通級の指導を充実させていこうとする方針

- ・自治体間格差をなくしていく。

③専門性を地域の学校に広げていく。

- ・特別支援学校の専門的支援が得られるようにセンター的機能を活用。

④モデル事業を行っていく。

- ・柔軟な教育課程および指導体制の実現を目指している。
- ・特別支援学校と地域の小中が連携し、一つの学校としてやっていく。

〈多様な子供がいることを前提とした学校に〉

・障害だけでなく、多様な家庭環境、性的志向やアイデンティティ、国籍等多様な子供たちがいられる学校づくりをやっていく必要がある。

〈質疑応答〉

(委員長)

Q 理念と現実、それが実現されている学校がどのように動いていて、どんな交流が行われているか、具体的な姿がイメージできない。こんな本、資料があったら、教えてほしい。

A イタリア フルインクルーシブ教育を進めている。特別支援学校が廃止されている。

1学級の人数が少なく設定。地域の専門家チーム（言語聴覚士など）が支援している。

○意見交換

委員	自治体の中で、どうしたらいいかと困った経験等があれば知りたい。
委員長	では、どんな専門家チームが必要なのか、必要な知識を得てから質問したい。
委員	裾野の場合、特別支援学級や通常の学級で交流をしているか。
教育監	行事等は、通常と支援学級で交流している。また、教科によっては交流を行っている。
委員	学校の先生方もどのように交流すればいいか理解しているか。 交流のイメージを理解していない先生もいるのでは？
教育監	特別支援学校とは居住地交流という形で、どんな活動ができるかを事前に相談した後、交流活動を行っている。
委員	担任の先生が交流の内容を設定するのか？
教育監	住んでいる場所が同じということで、その地域の学校の担任と相談している。
委員	教育委員会は、サポートをしているか？
他	学校ごと。
委員	先生だけに任せるのではなく、教育委員会もサポートできる体制が必要ではないか。
委員	やり方と言われてもわからない。今も特別支援学級で授業をしているが、調べ学習で終わってしまい、本当に学習になっているのか。反応自体が苦手な子もいて、本当にやりたいと思っているのかわからない。
委員	子供たちからのフィードバックがあると分かるかもしれないが、先生方の力だけでは不安になるだろう。
委員長	静岡市は、特別支援学級や学校が集まって運動会をやっているようだが、裾野の場合はどうか。

委員	以前はなかよし運動会として、特別支援学級が集まってやっていたが、今はコロナの影響もあって行っていない。
委員	運動会一つとっても、いっしょにやろうとしたら同じルール、競技性でやろうとしたら、それは違うとなる。千代田区の麴町中学校は、子供たちに運営を任せ、みんなが楽しんで過ごせるのかという問いの下で運動会をやった。子供たちが多様性を認識し、場を作っていくというコミュニケーションが必要。
委員長	この議論に入っていきたいと思うので、ご意見をいただきたい。
委員	イタリアは、元々は日本のような教育制度だったか？ もし同じだったら、どのような経緯を経て、現在の教育システムになったのか？
野口	イタリアは、もともとは分離的な学校教育。イタリアは、精神科の病院の入院から改善していった。分離した場というものを廃止していった。当たり前に地域で生活していくということが掲げられた。 社会全体で変化していった。 学校教育だけでなく、全体の場にお金をかけてインクルーシブにしていった。国として、優先課題としたことが大きかった。 日本としてどうしていくのかを考えたときに、現在の形を廃止せず、特別支援学校の知見を通常の学校に入れていくという方向性を考えている。
委員	現場の先生の話を知ると、日本の先生方は通常学級でのキャリアを想定しているのではないかと感じてしまっている。 子供たちが多様であるという現実において、特別支援学校で経験してきたことが、通常の学校でも使えるという知見が大切。 一人一人に対する理解度、学び方があらゆるところで実現したらと思う。 どうやったらそれぞれの場で可能になるのかを検討出来たら。
委員長	先生方は特別支援の教員免許をもっていないのに、特別支援学級を指導していることが多い。後ろめたさを感じているのではないか。 他の国は、特別支援という免許を取っているのかなど気になるところはある。日本のシステムに合わせて変えていったらという意見は納得できる。
野口	大阪府箕面市では、基本的に通常学級で過ごすというやり方をしている。医療的ケアが必要な子ども、通常学級で過ごしている。課題は、そこにいるだけとなっている、場として一緒にいるだけで、合理的配慮が提供され

	<p>ていないということがある。その子に合った目標の設定、現在実現可能な配慮について取り組んでいる。</p> <p>埼玉県は戸田市では、通常の学級のスタイルを変えていこうとしている。個別最適な授業づくり、プロジェクト型の授業づくり 子供に対する接し方を学ぶ ケース会議を毎月行っている。</p> <p>東京都では、先生方もインクルーシブにするためにはどうすべきかを学んでいる。各先生方がプロジェクトを行っている。廊下にクールダウン場所を作る、先生たちが職員室で歓談できるなど、働きやすい学校づくりを実践し、それがインクルーシブな学校づくりにつなげている。まずは、ここからやってみようというスタンスで取り組んでいる。</p>
委員	<p>本校でも支援学級が4クラス。年々増えている。教員になったころは、特別支援教育という言葉も知らなかったし、そういったことをやるという前提で教師になったという方は、特に上の年代は少ないと思う。</p> <p>多くの先生方がどのように特別支援教育を進めたらいいか悩んでいる。どうしていったらよいか、特別支援教育の経験、専門性を高めていくことが大切。</p> <p>また、研修、環境設定について、人の数も必要になる。専門性は急にはついてこないと感じる。積み上げが必要。</p> <p>人の数をいただきながら、研修を積み、専門性を高めていくことで、裾野市としてよい形になっていくのではないかと。</p>
委員	<p>先生方のアンケート回答を見ると...</p> <p>特別支援コーディネーターとしての仕事をやっていくことの大変さを感じる。支援員をもっと増やしてほしい。その子に合った支援、子供の実態に合ったカリキュラムということを考えていくと、支援員の先生も時にはマンツーマンでつくことができる、専門性を持った方を配置することが大切だと感じる。担任の先生方も、教材研究等に力を注げるのではないかと。支援員の専門性を磨くことも大切ではないかと。</p>
委員長	<p>そういったところに視察に行ってもらっても可能なのか。</p>
学校教育課長	<p>狛江市の学校に、通級教室の先生と指導主事が訪問させていただき計画をしている。</p>
委員	<p>週に一回、授業の研修についてやっている。その中で、次のような話も出ていた。特別な支援を要する子が、学びが進まない中でどのようなサポートをしていったら学びが可能になるのか。私たちにそのことを考えていく</p>

	<p>研修が足りないと感じている。そういった研修を積むことができれば。それぞれで考えてやっているが、的確かどうかわからない。そのようなところを見てもらえれば、授業で生きるかなと考えている。</p> <p>多くの生徒が個別の支援計画も的確にできているか不安がある。専門的なアドバイスがほしい。</p>
野口	<p>計画を立てるときに、個別の支援ばかりになり、増やせば増やすほど担任の先生の負担は増えていく。</p> <p>どの子にとっても有効であるユニバーサル視点での専門家からの助言が必要。個別支援が不要になる子もいる。</p> <p>学級経営のやり方を変えるだけで、特別な支援は減っていく。</p> <p>全体に対する工夫をすることで、問題行動をする子も減っていく。専門家の助言を受ける機会が増えるとよい。</p>
委員	<p>特別な支援を並べることで、これは全体にも有効ではないかと考えていくことはよいのではないか。</p> <p>共通した支援ができるのではないか、という視点でよいか。</p>
野口	<p>共通することはみんなでやったほうがよいという考え方。</p> <p>小1の事例で、自分から困ったと言えない子に対して、支援員もいたが、言えなかった。そこで、困っているカードをつくり、運用するようにした。すると、みんなにも作ろうということで、実行した。</p> <p>また、暗記の場面では、書いて覚えることが難しい子に対して、歌って覚える、写真と一緒に覚えるなど 自分に合った学び方を提示して、選択して学ばせる指導をする。</p> <p>個別支援だとずれも出る。それを全体に広げていくという観点で取り組みがあった。</p>
委員	<p>学校運営協議会でも同じような話が出る。現在の先生を楽にさせるではなく、学習の遅れをカバーする地域の方のグループを作ろうということで話し合っている。深良地区の運動会がなくなり、みんなが出てこなくなった。小学校と一緒にやろうという負担を感じてしまうが、学校運営協議会が運営することで、負担にならないのではないか。一回やることで、他の教育、学習でも、関わらないようにという雰囲気がある。それをなくし、ゆくゆくはみんなと一緒に教育ができるようなという形ができていければいいと思っている。</p> <p>深良用水の資料を学校に渡しているが、水利組合の方も学校に呼んで授業をやれば、学習効果も高まる。地域全体を引き込んでやろうと考えてい</p>

委員長	<p>る。地域で協力し合って、地域で現場に連れて行って学習できるようにしたい。そういうのをやっていけば、特別な支援を要する子も、みんなと話ができてよくなるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>深良以外の学校と話しあっているのか？</p>
委員長	<p>学校運営協議会は、市内全部の学校にある。教育のあり方と通じるものがある。体の不自由な子という話も出てくる。できるだけ差別しない、同じ場所で同じことを学んでもらう、ゆくゆくはよい方向に進むのではと話合っている。</p>
委員	<p>横並びではなく、まずはやってみようということが大切。そういう話も共有できるような場があるとよいと考えている。</p>
委員	<p>弟も特別支援学級に入っているが、担任の先生も理解できていないのではということで、面談の機会をつくってもらうことで打ち解けることもできるのではないか。</p>
委員	<p>学校は、今子供しかいない環境。 地域の人もいて、いろいろな人がいる環境を作ってしまえばいいかも。多様性のある学校になるのではないか。</p>
委員	<p>学校の先生に言えないことも、地域の人には言えるということもある。</p>
委員	<p>社会に出たら、年齢バラバラで同じ会社の中で働く。学校という期間だけ、同年代、同じ建物の中で区切られているということになっている。多様な人がいることも大切だと思う。</p>
委員	<p>いつもと違った関係だから相談しやすいということはある。</p>
委員	<p>いろいろな職業の方に来ていただき、話をしてもらおうということをやっている。その一日だけでなく、誰かが学校にいてお手伝いする。地域と交わっていけば、悪いことは起きないのでは。</p>
委員長	<p>先生がいてという前提で考えないのはよいと思う。 みんな支援が必要だとなるかもしれないが、多様性の中で助け合って生きていける市になってほしい。だったら、同じ手法で解決できるというものも出てくると思うので、皆さんも気を配ってほしい。</p>

委員長	<p>それでは、予定されておりました議事はすべて終了しました。皆様のご協力により議事をスムーズに進めることができました。進行を学校教育課長にお返しします。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。 それでは、次に 「その他」 となります。何かございますか。</p>
教育監	<p>1点、 前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開についてご意見を伺いたいと思います。 事前に委員の皆さまには、前回の議事録（要点筆記）を送付させていただきました。ご一読いただき、何か修正する点や変更点はございませんか。無ければ、前回の委員会議事録を確認いただいたということで、こちらで保管をさせていただきます。 また、当委員会は公開で開催しておりますので、当議事録を市ホームページに公開することを予定しております。若干、発言者の表記に留意した上で、公開したいと考えておりますが、宜しいでしょうか。 (異議なし。)</p> <p>それでは、準備が整い次第、当議事録を市ホームページにて公開させていただきます。</p>
学校教育課長	<p>他に、何かございますか。 無ければ、閉会に移らせていただきます。 閉会のあいさつを教育部長、お願いします。</p>
教育部長	<p>次回の日程につきましては、11月8日（水）となりますので、よろしく申し上げます。また、事前に開催通知や資料等の準備が整いしだい送付させていただきます。 最後に、皆様方から、何かございますか。 無いようですので、これで「第2回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>